

# 小児在宅医療について

2024年7月28日

大阪大谷大学薬学部

金子明史

指導施設 あお薬局

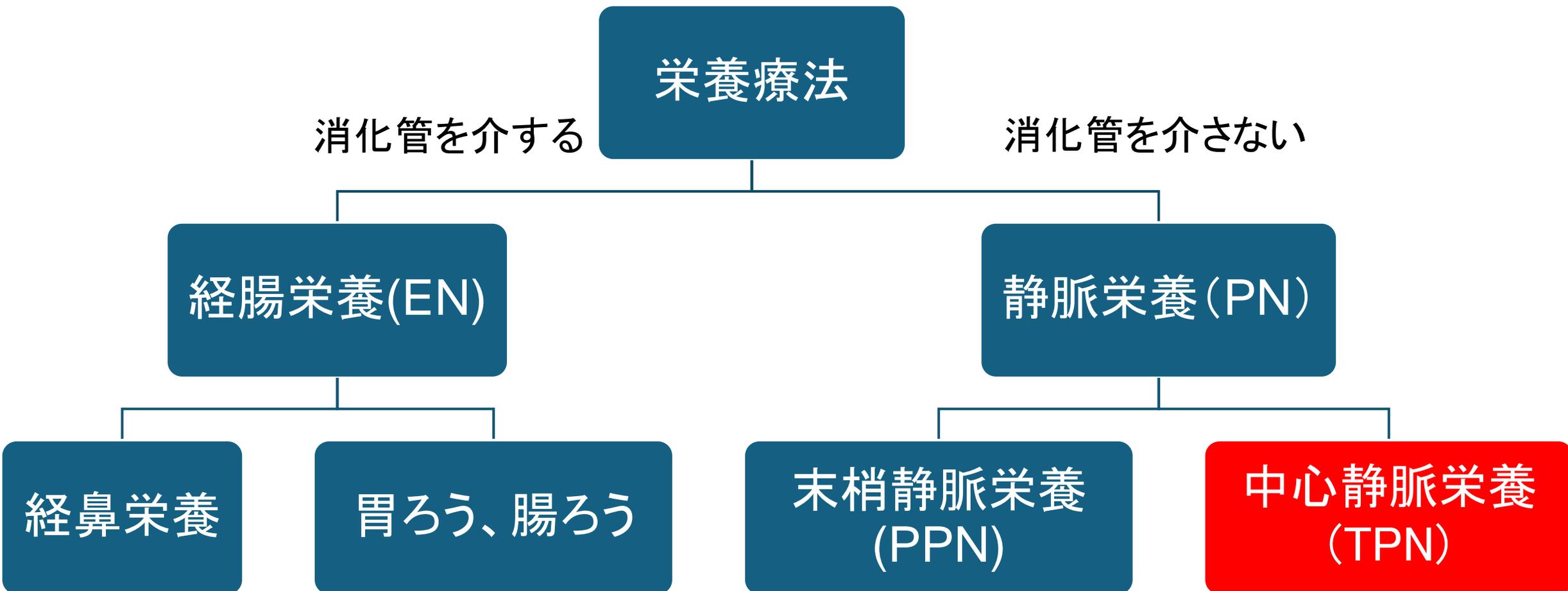
# 目的

薬局実務実習に於いて小児在宅医療について関心を持ち、小児在宅における  
消化器疾患の栄養管理について学んだ  
ことを報告する。

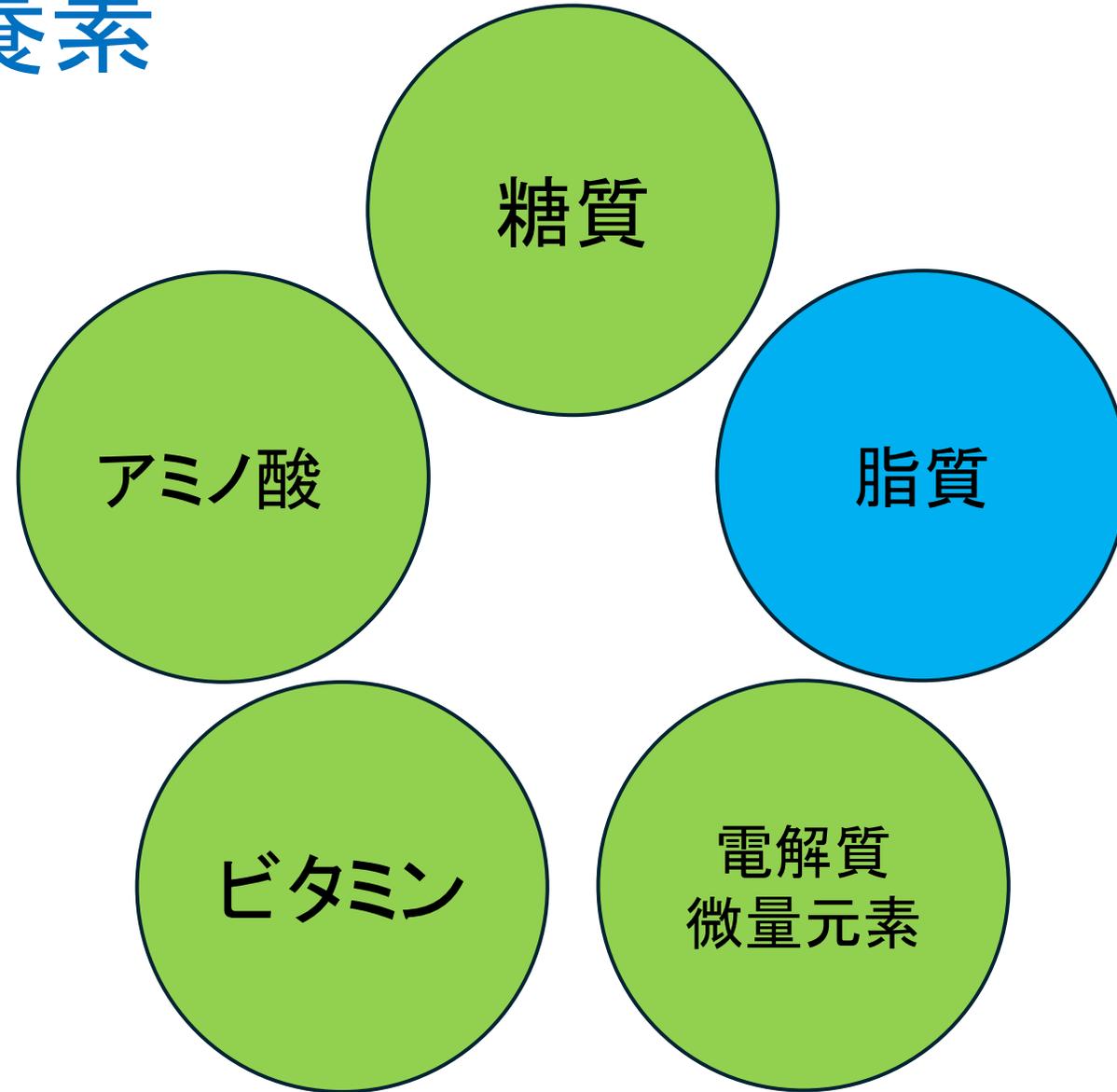
# 小児在宅医療の主な疾患

- 消化器疾患
- 呼吸器疾患
- 先天性疾患
- 神経筋疾患
- 重症てんかん
- 小児がん

# 在宅 TPN (HPN) について



# 輸液の栄養素



今回の患者の  
輸液に脂質は  
含まれていない。

# HPNの無菌調剤

高カロリー輸液の無菌調剤 7日分調剤

アルコール消毒

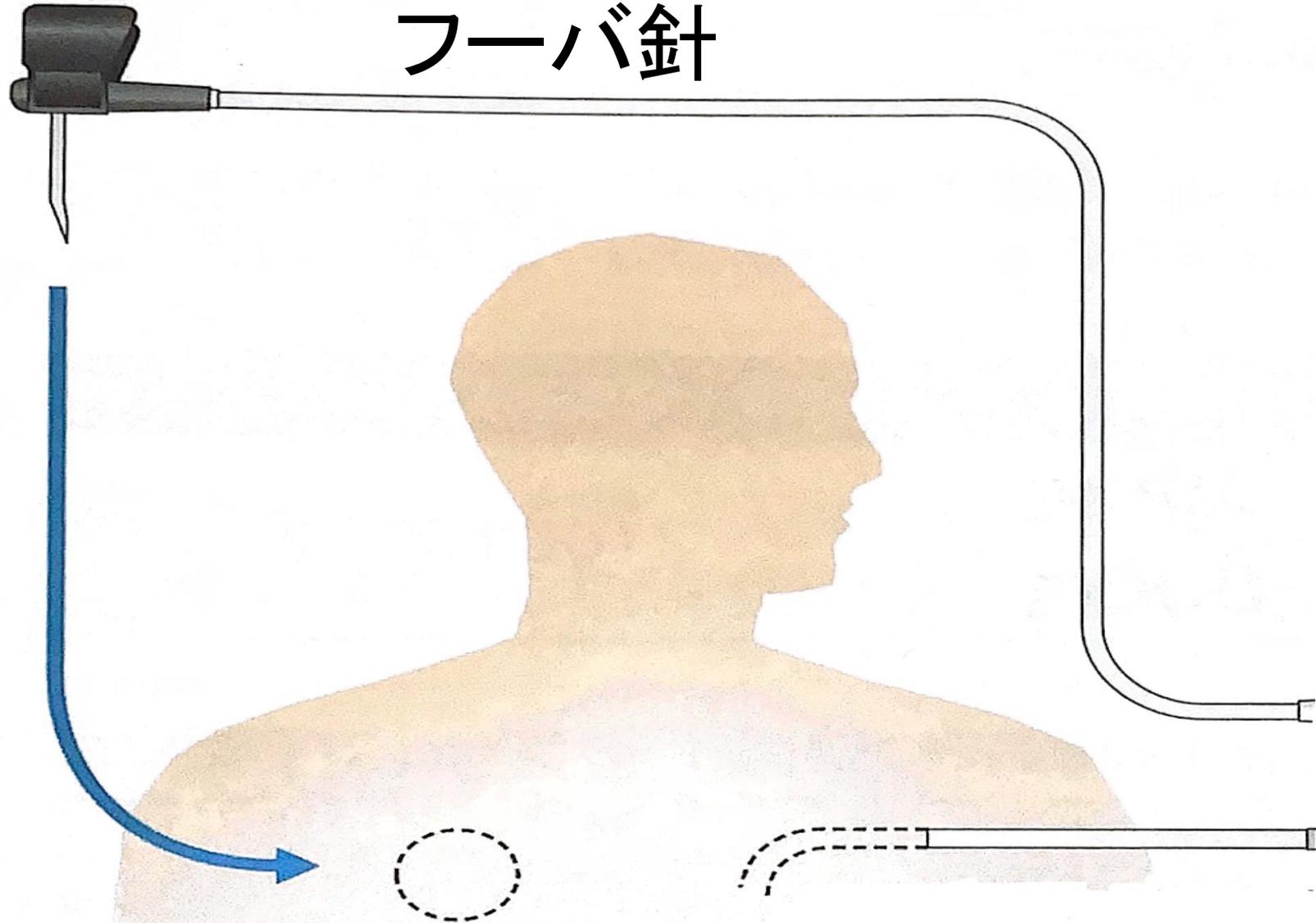
真空包装

冷所保存

患者宅の冷蔵庫  
には10日分  
保管可能

# 投与経路

フーバ針



植込み型注入ポート

中心静脈カテーテル

# 患者情報

- 未就学児
- 疾患は小腸の壊死により大部分切除のため短腸症候群
- 2020年10月 退院前カンファレンス参加
- 2020年12月 退院

退院後半年間程は、子供のことなのでご両親は慎重に対応され、ご両親の輸液を扱う不安感も強かったと聞いた。

## 短腸症候群①

- **短腸症候群 (Short Bowel Syndrome : SBS)** は、何らかの原因で消化器官である小腸を大量に切除したことなどにより、生命の維持や成長に**必要な栄養素を吸収できなくなった状態**を示す。
- 小腸の吸収機能が低下することによる**栄養素や水分の欠乏**に伴い、主に**栄養欠乏**、脱水、体重減少などの症状がみられる。

## 短腸症候群②

成人	小児
クローン病	先天性小腸閉鎖症
上腸間膜動脈塞栓症	中腸軸捻転
絞扼性イレウス	ヒルシュスプルング病
外傷	腹壁破裂
腹部腫瘍	壊死性腸炎

# 処方内容

Rp. 1 高カロリー輸液製剤

塩化ナトリウム10%注射液

高カロリー輸液用微量元素製剤

高カロリー輸液用アミノ酸製剤

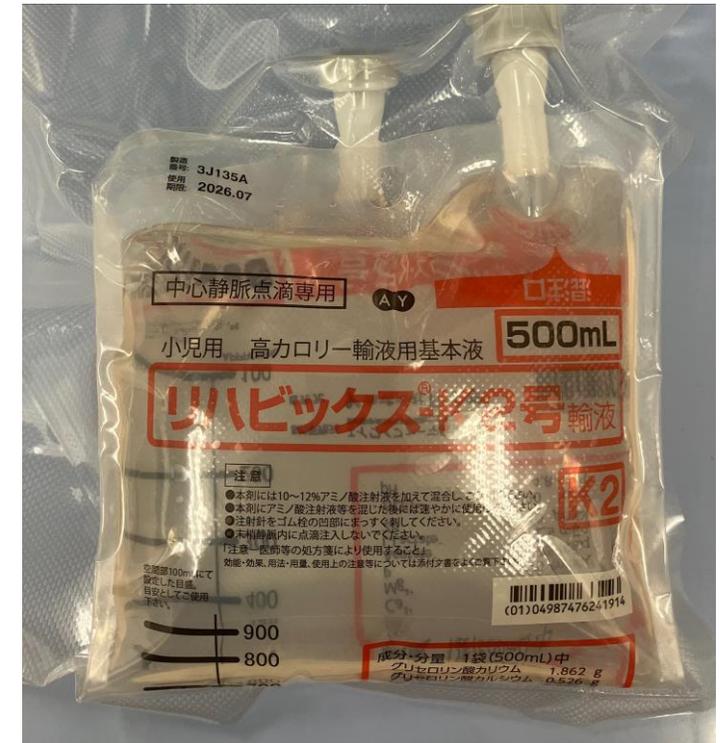
血液凝固阻止剤

ブドウ糖50%注射液

亜セレン酸ナトリウム注射液

Rp. 2 高カロリー輸液用総合ビタミン剤(キット製剤)

血液凝固阻止剤(キット製剤)



Rp. 2はそのまま  
交付し、保護者が  
自宅で混注。

# 輸液の投与状況とサービス利用状況

- **ポート**            **体が小さく留置できない。**
- **投与間隔**        **毎日間欠投与（夜間のみ投与）**
- **輸液ポンプ**     **在宅用輸液ポンプを使用**  
                         **往診医がポンプのレンタル会社と契約**  
                         **レンタル会社がポンプを24時間対応**
- **レスパイト入院を2ヶ月に1週間利用**
- **訪問看護とデイサービスを利用中**

# 大阪府



病院と保険薬局は**第三次医療圏**。

患者宅から病院は、**通院圏内**。



## HPNの連携②

小児在宅については地域に専門的な病院のない場合も多い。**薬薬連携**については、電子メールでの情報共有を主として行っている。患者の保護者の意見を聞き計画書や報告書などを作成し、

**在宅医師、訪問看護師、病院薬剤師と情報を共有し連携している。**

## 考察 感想

- 自宅で患者が小児在宅医療を継続するうえで**薬薬連携**や**多職種連携**は重要と思われる。
- 患者宅へ輸液を届けた際に、家族全員が笑顔で出迎えてくださった。
- **丁寧な対応を心掛けコミュニケーションをとることで**患者家族と良い信頼関係を築くことができ、この笑顔に繋がっていると感じた。